

第4回 第5次門真市学校適正配置審議会 議事録

開催日時 令和6年6月11日（火） 午後 7 時～午後 9 時

開催場所 門真市役所別館3階第3会議室

出席者 新谷龍太郎、西孝一郎、横山俊祐、吉岡 眞知子、岡本富男、勝川喜美子、川村早余子、小阪和之、後藤忠夫、平生眞悟、藤田俊和、船越叔美、植原 宏仁、脊戸利子、邨橋雅広

事務局 八木下教育長、水野教育部長、峯松教育部教育監、大倉教育部次長、井手教育部総括参事、渡辺教育企画課長、高岡教育総務課長、高山学校教育課長、宮崎教育企画課課長補佐、古川教育企画課兼学校教育課副参事、藤澤教育企画課主任

傍聴者 0名

議 事

○開催

事務局

定刻となりましたので、第4回門真市学校適正配置審議会を開催いたします。

本日はご多忙の中にもかかわらず、ご出席頂きありがとうございます。

本日、司会を務めます、教育部教育企画課の藤澤と申します。宜しくお願いいたします。

本日はいつもとスタイルを変えまして、WS形式で各グループにてご議論頂きたく、このような配席となっております。つきましては、前半部分の説明等、配席上やや聞きとりづらいこともあるかと思いますが何卒ご容赦願います。

本日は、18名中15名がご出席されており、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第5条2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。

本日、本田委員、山田委員はご都合がつかず、欠席となっております。

本日傍聴者はいらっしゃいません。

日置委員につきましては、遅れて来られることになっております。

会議に先立ちまして、委員の変更がありましたので、ご紹介させていただきます。

校長会の代表といたしまして、昨年度門真みらい小学校長の岩佐 美奈子校長に委員として参加して頂きましたが、今年度については、門真市立門真小学校長の植原 宏仁校長が委員として就任しております。植原校長、一言、ご挨拶を頂けたらと思います。

委員

ご紹介預かりました、植原 宏仁です。今年度より門真小学校校長に着任いたしました。この会は初めてですが、良い学校作りに寄与できたらと思っておりますので、宜しくお願いいたします。

事務局

教育委員会事務局についても異動等がありましたので、役職の変更や異動があった者のみをご紹介します。

教育長 八木下理香子です。昨年度までは副教育長をしておりました。続いて、教育部長 水野知加子です。昨年度までは市民文化部長をしておりました。教育部教育監 峯松大輔です。昨年度までは、教育部総括参事をしておりました。教育部総括参事 井手邦宏です。昨年度までは、四宮小学校校長をしておりました。

以上でございます。

次に、お手元の資料の確認をしたいと思います。

- 1 点目 会議次第
- 2 点目 審議会委員名簿
- 3 点目 資料 1 第 3 回審議会のふりかえり
- 4 点目 資料 2 学校の再編にあたっての基本的な考え方
- 5 点目 資料 3 学校位置図と人口推移について
- 6 点目 資料 4 持続可能な門真市のまちづくり

過不足ございませんでしょうか。

事務局

それでは、以降の進行は、会長にお願いしたいと思います。
会長よろしく願いいたします。

会長

皆さんこんばんは。夜の会議初めてですが、眠くはならない時間だと思いますので、皆さん今日も宜しくお願いいたします。先ほど事務局から説明がありましたように、本日のメインはワークショップ形式で小学校を中心とした学校再編をどうするのかを具体的に考えてみる、そのことが本日の 1 番のメインでございます。前回の会議の後半部分で少し皆さん方にいろんなアイデア、意見を出して頂いて、それっぽいことはやったような気がしますが、それをベースにしつつ、それから、再編をやるための条件というのもこれから説明があると思いますが、それをもう一度確認して頂いた上で、具体的にどういう再編を行うのかについて今日、皆さん方一緒になってお考え頂きたい。そのためにはこういうワークショップ形式が良いんじゃないかということで、突然で皆さん驚かれたかもしれませんが、こういうスタイルで進めていきたいと思っております。

ワークショップというのは、皆さん遠慮なくどんどん意見を出して、まず意見を出すこと

が重要で、それでまとまるかまとまらないかは、それぞれのグループに学識の先生がおられますので、その先生方の手腕にかかっているということで、好きに発言して頂いて構いません。宜しく願いいたします。では早速ですが、まず、議事次第に従って、前回の振り返りからしたいと思います。事務局、お願いします。

事務局

それでは、私から前回の審議会のふりかえりをさせていただきます。

資料1をご覧ください。

まず、「学校再編にあたっての基本的な考え方」について事務局より、なぜこの考え方なのか説明させていただきました。まず①のこれからの教育を実現する、これは、今後の学校再編に関わらず、門真市すべての学校で、実現をめざすものでありますので、今回の審議会では、実現をめざすことは「前提」として考えていくとしました。この実現にあたって、校舎を新しくすることは、非常にこれからの教育を実現する上で有効な手立てではありますが、なかなか一気にすべての学校を新しくすることは財政的にも、そして市の体制的にも厳しい現状があります。

そこで、どこの学校や校区から手をつけていくのか優先順位をつけて検討して頂きたいと考えました。では、何で優先順位をつけるのかということですが、それが②の児童生徒数、③の校舎の老朽化、この2つでございます。この2つに該当する学校であったり、該当する学校が多い校区であったりについて、優先度を上げたいと考えております。ただ、子どもの数はこれからより減っていく、でも一方で、まちづくりが進んで、大きく門真というまちが変わろうとしています。このような現状で、②③に該当する学校や校区だけでじゃあ検討しましょうということでは、もしかしたら場当たりの学校再編になる恐れがございます。ということで、④のまちづくりや⑤のこれまでの門真の歴史・変遷を踏まえて、門真市全体の学校の将来像を意識した、より広い視野から学校の再編をしていきたいと考えております。

ということで、委員の皆様から意見を頂きました。意見としては、おおむね、この考え方でいったら良いんじゃないかという旨のご意見を委員の皆様から頂きました。ただ、その中で、より、門真市全体の学校の将来像を意識するという意味合いも含め、⑥としてその旨の文言を付け足してもよいのではないかという意見を、西副会長から頂きました。こちらについては後ほど、付け足したものを説明させていただきます。

裏面にいきまして、では、具体的に考え方の②児童生徒数（単学級になっている、なる見込みがある学校）③の校舎の老朽化（築50年以上の学校）に該当する学校はどこなのかということ具体的学校名をあげて、お伝えをしました。委員の皆様からは、自治会活動の現状についてや、学校の校区がこの自治会と紐づいている部分があること。つまり、校区を再編した場合、この自治会についても今のままでは、校区が変わったりと、影響を受ける可能性があることなどについてのご意見がありました。また、「いや、もう校区と自治会活動は分けてはどうか」という意見もありました。ほかには、もう、将来的には、門真で1校の学校で良いんじゃないか。その方が、教育の実現や、費用面、ランニングコストも1校に集

中している分、いろいろとメリットがあるのではないのかといったご意見でした。また、②③に該当する学校については、市の中央付近の学校が多く該当しており、将来的な全体像を意識しつつ、このあたりのエリアの学校等の再編について優先度を上げて見ていく必要があるということがわかってきました。

本日も⑥は追加しますが、この「基本的な考え方」をもとに学校の在り方についてご議論を頂けたらと考えております。

以上が、第3回審議会のふりかえりでございます。

会長

ありがとうございました。3月4日の審議会から3ヶ月以上経っていますので、少しおぼろげな記憶かもしれませんが、こういうような議論を前回の審議会で進めてきました。これに関して、何か付け足しとかご意見ありますか。

無ければ次に行きたいと思います。前回の資料についてはご確認頂いたということにします。

では、次第の2ですが、今日のワークショップのまず前提というか、学校再編の基本的な考え方について、改めて説明をして頂きました。先ほど、事務局のふりかえりの際にも説明がありましたが、①は前提として実現をめざす。そのために校舎を新しくして学習環境をより充実させることは重要。ただ、一気に建て替えることは困難なため、②③で優先順位を付ける。その上で、場当たりの統合にならないよう、④⑤の視点も入れて、門真市全体の将来像をイメージしながら再編統合を考えていくといった内容でした。そして、西先生からは、門真市全体の将来像を見据えて検討すること、場合によっては校区の再編もあることなどを⑥として、記載してはどうかというご意見もあり、今回事務局から⑥を追加した形で、改めて資料が出てきているかと思しますので、その点について説明を頂けたらと思います。

事務局

教育企画課の古川です。資料2「学校の再編にあたっての基本的な考え方」について説明をさせていただきます。前回の意見を受け、追加しました⑥についてご説明をさせていただきます。

前回でのふりかえりや横山会長のお話にもあったように、①は前提②③で優先順位を決める④⑤は全体像や将来像を見るために使うといった確認について前回させて頂いたかと思います。そして、前回、西副会長より、門真市全体の将来像や、場合によっては校区の再編まで、検討する可能性があることから、⑥として、その旨を追加してはどうかというご意見を頂きましたので、⑥として学校の将来像や校区の再編について触れた考え方を追加させて頂いております。

「学校の再編にあたっての基本的な考え方」⑥についての説明は以上です。

会長

はい、ありがとうございます。これに関してはもう何度も議論を繰り返していますので、これはお認め頂くということではよろしいですか。

では、それは前提条件、それから統廃合を進め再編を進めていく上での条件、優先順位と

ということで、この3つの項目をご理解頂いて、それで本論に入りたいと思います。

では今日のワークショップについて。門真市立学校の再編についての議論をこれからワークショップ形式で展開していきますが、各グループでそれぞれお考え顶きますので、この進め方についてですね、ワークショップは皆さん慣れておられるとは思いますが、改めて事務局からワークショップの進め方についてご説明をお願いしたいと思います。宜しくお願いします。

事務局

引き続き、私から学校位置図と人口の増減等の説明をさせていただきます。お手元の資料3 学校位置図とかかれた資料をご用意ください。

まず、1枚目に関しては、本日のWSでも使用する資料です。後程お配りする模造紙には大きく記載しておりますが、この資料では小さい字で恐縮です。端的に説明させていただきます。

前回の審議会にて、基本的な考え方の②③の情報をもとに、スクリーンをつかってリアルタイムに築50年以上の学校へ「古い」のマークであったり、「単学級の単」のマークなどを入れたかと思います。それをそのまま載せさせて頂いております。

あわせて、校地面積と今年度の各校の児童生徒数・R12 推計の児童生徒数を記載しております。

そして、これまでに説明しております、まちづくりの情報も載せています。

最後に、左上に、今後の校舎建設の目安を載せさせて頂いております。

水桜から四宮・北巢本ときまして、この第五次の審議会の答申を受けて、最初に着手した学校の校舎が完成して開校ないし、移転等するのが令和14年ごろを想定しております。

以上が学校位置図についてです。

次に、一枚めくって頂きまして、門真市の人口の予測等に関する資料について説明をさせていただきます。

これを見ていきますと、全体的に人口が減っていることは見て取れるかと思いますが、□で囲ってある箇所にご注目ください。子どもの数の変化です。2045年にはおおよそ現在の半数程度の子どもの数になってしまう予想がされています。

一方で、折れ線グラフの方を見てください。これ、増えているのですが、何かわかりますでしょうか。実は、高齢化率でございます。つまり、少子高齢化といいますが、門真でも、そのような状況が顕著に出てくる予想がこの資料からは読み取れます。

続いて、次のページをご覧ください。こちらは、人口の増減を色で表したものです。お手元の資料は白黒ですので、前の画面を見て頂けると、わかりやすいかもしれません。まず、左側の方をご覧ください。これは平成27年と令和22年の予想を比較しています。青が濃い方が人口の減るエリアです。一方で赤のエリアは人口が増えるエリアです。見て頂きますと、ほとんどが青色になっていますが、一部、四宮小や五中付近のエリアが赤かと思います。つまり人が増える予想がされているエリアです。しかし、右側の図をご覧ください。これは同じく平成27年と令和22年の高齢者人口を比較したものです。見ていきますと、先ほど申しました、四宮小・五中エリアも赤くなっています。つまり、このエリア、高齢者が増えるということです。したがって、人口は増えるが、イコール子どもや子育て世代のご家庭が増えるとは言いつらいということとでございます。

次に、こちらの資料は、エリアごとの人口増減の将来予測です。まず、左側の図をご覧ください。お手持ちの資料は白黒ですので、よければ、スクリーンをご覧ください。

青色のところは減少するエリア、赤色が増加するエリアです。色が濃くなるほど、より人口が減少したり、増加したりしています。見て頂くと、全体的に、減少傾向が見て取れるかと思えます。

一部、右上付近の四宮小付近や第五中学校の少し北側付近などが赤色になっておりますので、こちらが人口の増加すると予測されているエリアです。

ただ、右側の図をご覧ください。これは、何かといいますと、高齢者人口分布です。これを見ると先ほどの赤いエリアについては、高齢者人口が著しく増加しております。ですので、一概に、じゃあこのエリアの人口が増えるから、子どもの数も増えるよねとはいえずらい状況であるのではと考えております。

まとめますと、一部増加の傾向もみられるが、全体的には減少傾向であるといったところでは。

そして委員の皆様、このニュースはご存じでしょうか。ご覧になった方おられますでしょうか。

20代～30代女性の人口の増減をもとにした、「消滅可能性自治体」というものの最新版が公表されました。

そこに、残念ながら、門真市も新たに追加されてしまいました。こちらは門真市駅のロータリーのところでインタビューされたのかなと思いますが、ニュースの中では、「たしかに若い女性はいない」といった意見や、「門真ではなく、吹田に引っ越したい」という若い方の率直な声もありました。門真市で働くものとしては、「吹田」に引っ越したいというのは、リアルな率直すぎる声でちょっと胸が痛いなあと個人的には感じたんですけども。

この報道を受けまして、門真市でこんな資料を先日公表しました。それが資料4でございます。

先ほども説明させて頂いた通り、門真市が入ったというところですね。この調査というのは、この赤色の大きく減っているところが調査対象にした期間で、今後も減るんじゃないかということになっております。これを見ていきますと、確かに2010年から2015年は大きく減少しているんですけど、その後2015年から2020年はというと、この状況が少し鈍化してるかなというところが見て取れるかなという風に思えます。というところで、2015年以降は実はですね、ちょっとずつこの減少傾向が改善してきているよという状況があるというところがございます。そして、次の資料ですけども、最新の2023年度、令和5年度ですね、昨年度の速報値でございますけれども、減少どころか20代、30代の若年女性人口に関しては91名増加しているというデータが出ました。つまり、先ほど人口推移の説明をしたんですけども、最新データでは、いわゆるこの子育て世代が増加しているというような状況でございます。つまり、今後このように順調に増加していけば、もちろん市内のエリアによって差はあるかもしれないんですけども、子供の数の減少も鈍くなったりですとか改善する可能性があるのではないかなというデータが示されております。

このように子育ての支援であったりですとか、以前から審議会でお伝えしている通り、様々な街まちづくりが進んでおりまして、ここの中に第4次学校適正配置審議会の答申で出ました（仮称）水桜学園も載っております。教育からまちを変えるリーディング校というような位置付けでございます。

その他にも古川橋駅のところに41階建ての高層マンションができたりですとか、最近

で言いますとらば一とやコストコも速見小学校区の松尾町の方にできております。そして、ちょっと延伸が遅れるというようなニュースもありますけれども、松尾町であったり、門真南駅にモノレールが延伸するという予定もございます。

このようなまちづくりが今後数年で一気に進んでいきますので、先ほど人口は減ると言ったんですけれども、大変良い意味で子どもの数については読みづらいかなという状況もございます。ただエリアで見ますと、水桜を除くと全て市内の北西の門真市駅や古川橋駅のエリアでもあります。そこも踏まえた上でワークショップでお話頂けたらと思います。

以上が資料3、それから資料4の説明でございます。

それでは引き続きワークショップの説明をさせていただきます。

委員の皆様の机に今から資料3の1枚目の内容を記載した模造紙を配布いたします。併せてマーカーも配布させていただきます。今から何をするのかといいますと、門真市内の学校の将来像、つまり将来的なエリア分けを考えて頂きたいと思います。この将来像ですが、今回の答申を受けて、再編する最初の学校が令和14年ごろ、現在進んでいるまちづくりがひと段落するのが令和15年ごろということも踏まえまして、本日のWSで最終的に落とし込んで頂くのは、令和20年ごろ、約14年後の将来像としたいと思っております。ただ、もちろんですが、もっと先を見据えて頂いた上で、逆算して、じゃあ令和20年ごろはこんな感じかなというような考え方で構いません。

また、学校の規模についてですが、縦のつながりを大切にする上でも3クラス規模がよいのではという意見がございました。このご意見をひも解くと、1学年100人程度、つまり、小学校でいうと600人程度・中学校でいうと300人程度校区として、仮に将来像が1小1中の場合、1000名程度になるかと思えます。統合や大規模改修したものの、すぐに単学級にといったようなことがないよう、このあたりの学校や校区としての規模感というものも、学識の先生方中心にご配慮の上、ご検討をお願いいたします。

また、エリア分けについては、校区の再編等を検討された場合、そのエリアをマーカーで囲むなどをお願いいたします。

あわせて、議論する中で、この学校とこの学校をとといった具体の話も出てくるかと思えます。その際は、その旨をエリア分け同様、マーカーでマーキングや記載等お願いします。

また、進めていく中で分からないことがありましたら私も含め、適宜、事務局の職員にお声がけして頂けたらと思います。

後程、交流の時間や各グループの発表の時間も設けさせていただきますので宜しくお願いします。

長くなりましたが、説明は以上でございます。

会長

はい、ありがとうございました。ではこれから各グループで学校の再編案を考えていきますが、今の説明にもありましたけれども、少し確認をしておきたいことがあります。

1つは単に少ない学校をくっつけて、大きくなった、はい終わりということではないと思います。

やはり門真市の将来の学校のありようを考えながら、どういうバランスで学校が配置されるのが良いのかとか、規模に関しては一定の規模に高めていくことが前提になりますけれども、大きいところと少ないところを単純にくっつけるということではなくて、例えば学校単位ではなくて校区ですね、校区の中で、その一部はこっちの学校に行った方が良いのではないかと、そういう校区自体をいじるということもあり得ると思いますので、それも含めて、もしご検討できればお願いしたいと思います。

それから、皆さんいろんなご意見おありだと思いますので、必ずしもグループで1つに意見がまとまらない可能性もあります。その時は複数併記とか、まとまらないけどこういう考え方でいったらどうかっていうような考え方を示して頂くとか、そういうやり方で良いと思いますので、無理に1つにまとめて、後で気まずくならないようにして頂ければ良いなと思います。

それから、小学校をベースにして再編をお考え頂きますが、門真が進めているつながりということを経済の中で積極的に展開していくということを考えると、小中一貫とか小中の連携というのも非常に重要になってきます。だから、この再編を考えていく中で、小学校だけの再編ではなくて、そこに中学校も一緒に考えながら小中一貫校をこういう形で計画するというようなご提案があっても良いと思いますので、その辺は少し柔軟に考えて頂いて、ご意見を出して頂きたいと思います。先ほど申し上げたように、各テーブルに学識の先生がおられますので、学識の先生にファシリテータや取りまとめとか、意見が出やすいような状況を作って頂くということをお願いしたいと思いますので、皆さん方はどうぞ自由に意見を出して頂ければと思います。

では、時間はどれぐらいですかね。

事務局

一旦20分ぐらい各グループでお話頂いてから、交流する時間や各グループを見回る時間を設けたいと思います。

会長

まず自由に意見を出し合って、どういう再編の可能性があるかというのをご検討頂きたいと思います。では、宜しくお願いいたします。

(各グループがワークショップ形式にて議論)

事務局

お話中すみません。ここで交流の時間として、各グループを見回る時間を取りたいと思います。

各グループ 2～3 名で他のグループを見回って頂いて、他の残られた方は、来られた他のグループの方に今こんな感じだをご説明をお願いします。また、他のグループを見たという班からまた元の話し合いに戻って頂けたらと思いますので、宜しくお願いします。

(各グループがワークショップ形式にて議論)

事務局

お話し中すみません。お時間になりましたので、一旦ここでお話終了して頂いてもよろしいでしょうか。ここから各グループ少し発表という形で、話し合った内容を共有して頂けたらという風に思っておりますが、どのグループから行くとか、私たちのグループから発表したいとかありましたら言って頂けたらと思うのですが、いかがでしょうか。

委員

はい。では私たちから。

事務局

ありがとうございます。ではCグループからまずお願いしても宜しいでしょうか。3分程度をお願いします。

委員

Cグループは色々意見は出たんですけれども、まず門真小校区、ここをブランド化するため小中一貫校を作った方が門真のイメージが上がるのではないかという話がありました。はすはな校区のタワーマンションはファミリーマンションではないので、こっちの方に11階から12階建てのファミリーマンションを誘致してくれたら、特に若い人が住みやすい町として開発できるんじゃないかという話が出ました。

また、幼稚園が多分スクールバス(園バス)を持ってると思いますので、それを利用して小3ぐらいまではある程度その園バスを活用した通学ということも考えていけば良いのではないかという話や、小中一貫校にするのは良いですけども、いじめの対応が難しくなるということなので、地域と連携した取り組みであったりとか、地域の人を中に入れるような、そういうことも踏まえた小中一貫校を作るべきだという話がありました。あと校舎の歴史や地域、緑を保つとか、そういったところも意識する必要があるだろうという話でした。

会長

ありがとうございました。では続けてBグループをお願いします。

委員

Bグループは揉めるのをなるべく避けるような未来を見据えたので、中学校は一応残し

て温存していこうかと考えています。やはり 1 番早く綺麗にしてあげたいのは、二中校区の学校が全部すごく古いので、まず優先順位 1 番目ですね。統合校というか、沖小学校に良い学校を建てます。

その次はどちらかなと悩みましたが、三中が古いのでこちらも小中も合わせて良いのを三中に建てます。これが優先順位 2 番目。

3 番目は二島小のところに、最終的には、だいぶ先ですよ、もう 30 年ぐらい経ってからかも知れないけど良い学校 1 つ建てます。距離が遠いという子がいたら、遠い地区については町ずつで校区を変えられることも可能にして。

4 番目ですが、四宮小を新しくするけど五中がやはり古いので、四宮校区の新しくしたところに新しいのをもう 1 回 1 つにして建てるか、新しく作るものに入れるなら入っても良いぐらいかな。(仮称) 水桜学園は 1 番新しいからもう置いといて。

はすはな中学校もあと 50 年ぐらいしたらここも新しくしないといけない。可哀そうだけど古川橋小は古すぎるので、みらい小に通ってもらうようにする。通うのにバスが必要だから、園バスもあるなと思いましたが、学校のバスを作ってもらって、一般の利用客も乗せてお金を支払ってもらって学校経営が成り立つようにできたら良いなっていう意見もありました。

そして東小学校が(仮称) 水桜学園に来たら良いのにと。五中は遠いからね。東小はどっちに行っても良いよって言ったらややこしいから、もうちょっと考えて、(仮称) 水桜学園に通うように最終的にしたら良いかなという考えです。

大体全部一貫校になりますが、(仮称) 水桜学園がうまくいかなかったら、反対されるかもしれないなっていうちょっと懸念があります。以上です。

会長

ありがとうございました。では最後に A グループお願いします。

委員

A グループは現在から見ていくのではなくて、ゴールから考えた時のステップがどこにあるかっていうような見方で考えました。

学校の数は一時的に少数になっていくだろうと、じゃあそうなった時にどう減らしていくのかというのが、令和 14 年だったり、その次の 3 年後だったりっていうステップかなと。では最終的にどうなった方が良かったっていうようなことで話をしました。

そしてまず分けていく中で、すでに新しくなっている(仮称) 水桜学園とかも遠慮なくやっぱりメス入れしていかなあかんだろうとか、そういう気持ち、考えの基準はどこにあるかとかですね。

あと混ぜていく、減らしていく中で、1 つ線引きするのはやはり 163 号線、子どもの安全っていう面ではやっぱり大きい 1 つの道になるかなと。今でも道渡るのにやっぱり危険だなと感じることが度々あったりしますので、その境目はどこにあるのだろうか。やはり 163 号線というラインが足かせになってるんじゃないかっていうことで、この辺り、や

っぱりゴールから見た時に、早い段階で払拭していかないといけないんじゃないかっていうような意見が出ました。

ちょっと具体的な話にはならなかったですけども、見始めのスタートをちょっとゴールから見て意見を交わしたというような内容になりました。

委員

別のグループを見に行って皆さんの意見を聞いた時に、やっぱり無難なところで色分けのところがその校区で残して、まず小学校1つ統合して、中学校の人数も増やすみたいな話をしていたので。でもそんなことをしても令和20年頃を見た時にもうきっと成り立たなくなってる。

その時はやっぱりここで安全を考えたらここがベースになるのかもしれない。まずそのために、まず今あるところを1つの中学校区と考えるのであれば、元々多くて、クラス数もそこで授業してたのが、人数が減って1学級、2学級になってるから、統合しても空き教室でどうにかできるんだったら、あまりお金もかけず、とりあえずその場しのぎをしておいて、そして今ある中学校区で人数がこれ以上どうにもならないとなった時は、ゆくゆくその先でどこかに新しい校舎を建てないといけないっていうのであれば、その時にもっと先を最終的には1小1中かもしれない。じゃあその学校はどこに配置するのかっていう、そこをベースに、そこには1つその時には建てるみたいな、そういう考えがあっても良いんじゃないかなっていう。ちょっと先を見た話をしました。

会長

はい、ありがとうございました。

皆さん方、ちょっとお互いにやり取りをした方が良いと思うのですが、例えばCグループは、門真ブランドを打ち出すということで、この門真小、速見小、三中、これで新しい魅力的な学校を1つ作って、それで女子大生を集めると新谷先生がおっしゃっていて、そういう意味で、ここを門真のリーディングスクールとして、(仮称)水桜学園は真面目なリーディングスクール、こっちはポップな流行りの人集めのリーディングスクールとして位置づけるという、街づくりと整合したアイデアとしてなかなか面白いなと思いました。

ただ、それ以外については、まずは皆さんやはり古川橋小学校でもものすごく悩まれるんですね。ここでも中学生が電車通学しているとか、古川橋小はすごく可哀そうな学校だけど難しいよねっていう議論があって。最終的に英断されたのはやはりみらい小と一緒にするという案ですね。

それで、通学距離が遠くなるので、その分スクールバスとか、なにか手当てをしつつ、やはりこのまとまりで行った方が良いのではないかということが、BグループとCグループ共通の提案になっていました。

あと優先順位でいうと、Cグループは門真小校区が1番目で、沖小校区が2番目、二島小校区が3番目でした。

そして中学校区単位ではあまり変えないというベースで作られていて、そういう意味で

は、Bグループの委員がおっしゃったような、反対の少ない、うまくいきやすい再編のプログラムが作られているけれども、この門真小学校に門真の命運をかけるっていうあたりもなんかちょっと面白いなという気がします。

そして次はこれも非常に現実的な提案になっていますが、東小学校は五中校区ではなくて（仮称）水桜学園校区が良いとの提案です。

それから、基本的に小中一貫を作っていこうとすると、四宮・北巢本が残念なことに一貫になりきれていないので、隣接型の一貫校としてどういう運営が展開されるかというあたりも課題になると思います。

あと面白かったのはここですね。二中校区で思い切って沖小学校に学校を作るという。そして大和田と上野口と、色々過去の軋轢があったらしいですが、そういうのもここに作ればひょっとしたら解消できるのではないかとということもありますし、全体の中心はここですので、校地の面積はそんなに広くはないけれども、積層でやっていけばきちんと作れるような気がしますので、この2つで議論せずに、沖小学校を拠点にするというあたりが1つ、全体のまとまりを作る上ではうまくいきそうな感じのする計画だと思いました。

順番としては、上野口、門真、二島、ここら辺の地域を先に進めていこうということで、順番が変わるか変わらないか、そういう議論になっています。

最後に、30年後に1小1中で収まるかわからないですけども、やはりこの163号線が1つの学校区を考える時の境界線になるのではないかとということで、最終的には1小どこかに作るというお話もありましたけれども、過渡的にはこの線の上側と下側である種のまとまりを作っていくという考え方があって、それはひょっとしたら30年、40年後ぐらいにはあり得る話かなと思います。

その時は、ここが中心になるのか、こっちにはまた新しい学校を作るのか、それぐらいのところまでは考えていく必要があるのかなという、少し大きい提案ですけども、しっかりと見据えとかなくてはいけない話だと思います。

そういう意味で、3つのグループそれぞれ色々な意見があって、再編に向けたアイデアを今日は出して頂けたのではないかなと思います。折角ですので、お互いのグループに質問とかご意見があったら出して頂きたいのですがいかがでしょうか。

例えば最初のCグループの案に関してどうでしょうか。

委員

Cグループの案で特色あるブランドの学校とおっしゃいましたが、例えば越境してそこ行きたいとなってもありますか。

委員

ありだと思います。

会長

門真小校区は守口市が近いですからね。なかなか面白いのではないかと思います。他は

質問いかがですか。何かご意見。では堅実な B グループの案、けれどもちょっと思い切った提案もございますが、質問とかご意見いかがでしょうか。

委員

古川橋小学校の校区の子を今まで通りの校区にするというのは、しょうことなしの案だと思います。大和田小と上野口小については、京阪 163 号線の間にそれだけの土地が確保できるのであれば、それがベストという前提ですが、難しいですかね。

委員

小中一貫校を作る時に、敷地面積がどれだけあれば建てられるのかというのが、疑問です。

会長

学校の規模を一貫校にすると大きくなります。そこで高層化した学校というのが作られ始めていて、私は基本的に高層化するのは反対だったんですけども、今度守口市で 6 階建ての学校を作ります。スーパー堤防があって、その脇に 6 階建ての学校を作るんですが、意外にうまくいきそうなのです。

だから、高層化は反対じゃなくて、高層化もありかなという風に考えています。そういう意味で 15,000 m²とか 16,000 m²ぐらいはありますので、一貫校は作れるのではないかな。ただ、中学生が思い切り野球するとかですね、そういうのはちょっと厳しいと思います。

そういう意味で、都市型の密度の高い学校として、運動施設はそんなに豊かではないけれども、学ぶ環境として豊かなものを作っていくというそういう発想に立てば、例えば上野口小とかに学校を作るというのはありかなと思ってます。

委員

東京の私学校とかはグラウンドとかは小さいですけど、校舎はすごく綺麗に建ってます。

会長

なので、そういう作り方を考えられるんじゃないかなと思います。可能性はあると思います。そうすると、B グループの案はあり得るということですよね。

委員

土地の確保が前提で難しいだろうなと思ったので。

会長

なるほど。その前提は外して高層化で対応するっていうことになる古川橋と上野口、

大和田は考えられると。

委員

考えられると思います。

あと五月田小学校と二中の間に道路が走ってるので、区切りとしてはそこから北側とそこから南側というのも1つ考えられるかなというのは思っていました。

会長

その可能性も大切にしていきたいと思います。他にご質問とかご意見いかがでしょうか。

委員

(仮称)水桜学園がブランディングしてますから、あそこで見事な良い学校ができて、みんなが真似したいとなることを祈っています。一貫校がやっぱりそこでうまくいかず別々が良いとなってしまうと、私の小中一貫校6校計画が破綻してしまうので。

委員

Aグループの案の弁解ではないですけど、近未来ではなくて、門真の未来がどうかというのをまず考えないと。新しい校舎を今建てたら少なくとも30年から50年使うということもやはり想像しないといけないので、ここではもう少し長い未来を見て、本当に建物をどこに作るかというのでは、今の概念を、もっとさらに未来を見据えた概念を考えながら必要じゃないかということで、結論の出ないような論議をずっとしてきました。

先ほど会長もおっしゃったように、東京も含めて高層ビルの学校も本当にできていると。ではどんな学校を作るかという時に、空いている土地がなくても作れる可能性があれば、それを拠点としてどんな学校ができるかというかなり飛躍した発想の建物が必要ではないかと。

というようなことも言われていたので、校区を分けづらくて。でもこんな学校にしたら良いのではないかというイメージは十分話し合いをされて、私は同感だったし、やはりもう少し先を見ないと、今4分割だと言っても結局は20年後にまた1つにしないといけないのではないかみたいな意見が出ないかという不安があったということで、結論はあまり出てないですが、先を見て計画を作りたいという意見が多かったです。

会長

できればそのプロセスを示して頂くともっと分かりやすくなると思うんですけどね。最終的に1小1中とか2小2中になった時の段階がどうなっていくのかというのを見せて頂くと、これと重ねて議論ができそうな気がします。

ありがとうございました。普段の会議に比べてとても盛り上がって楽しい会になりましたね。

とても貴重なご意見を出して頂いて、今回の各グループから出てきた意見を基に話を進められるのではないかなと思っております。

また次回、これをより深めて議論を続けていきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いします。

遅い時間まで本当にありがとうございました。